

Vertical handwritten text on the right margin.

變

第一三三三

大正元年十月三日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍大臣 野澤廣一 閣下 敬啟

軍務局

驅逐艦潮推佳 器異折換件

司法局

陸政本部

果別紙ノ旨ニ為之申言已ク得サリ

第三會計 第四

右報告書

別紙一括添

海軍



0509

10-31

機密第一八五號之三

大正元年十月廿三日

伊地知長海軍工廠長

野間口吳鎮守府參謀長殿

駭逐驅潮右舷推進器翼破損ノ件

本件ニ關スル吳水雷團機密第一八號吳水雷團長報告

ニ對スル當廠ノ所見尤記ノ通り

右通知ス

本推進器ハ本廠新造ノ者初ヨリ繼續使用シ既ニ七年余ノ長日月
ヲ経過シ先モノナルガ故ニ自然材質全体ニ變化ヲ蒙リ漸ク衰弱ヲ
来スニ至ル蓋シ之免カレサル所トス尚ホ其ノ破断面ニ於テ別箇ノ如ク部

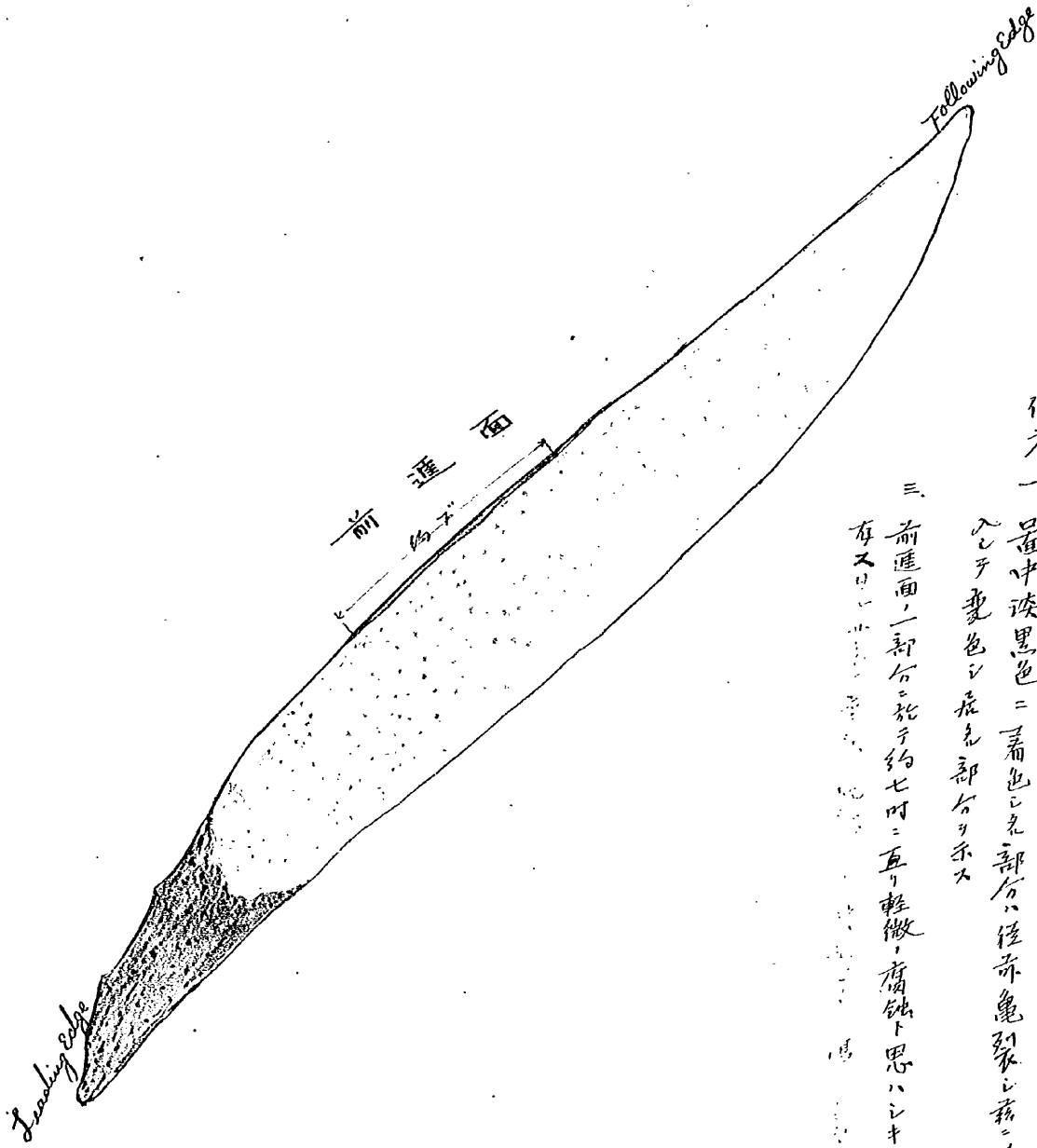
0510

変色セル所アルヲ以テ見ルニ過去ニ於テ既ニ材質中ノ此等脆弱ナル局
 部ニ微細ノ罅裂ヲ生シ漸次浸蝕シタルモノナルベク永年使用ニ伴フ
 全材材質ノ疲労衰弱ト相俟テ遂ニ破断ヲ惹起スルに至リ
 シモノト推断ス而シテ現在ノ破断面ヲ檢スルニ鑄物トシテ最良モト
 ハ認メ難キ点ナキニアラサレトモシレ偶前記材質變化ノ影響者ニ非
 ルヤヲ疑フシムモノニシテ未ダ之ヲ以テ直ニ製造者初ニ於ケル材質ノ
 良否ヲ判断シ難シ

(別紙背面電葉添フ)

(3)

0511



駈逐艦潮右舷推進器切換翼面図

備考

- 一、本圖ハ切換翼面ヲ屬真ニ撮影シテ之ヲ描寫シタルモノナリ
- 二、圖中淡黒色ニ着色シタル部分ハ徑亦龜裂家ニ露ニ海水浸
入シテ変色シタル部分ヲ示ス
- 三、前透面一部分ニ於テ約七吋ニ亙リ輕微ノ腐蝕ト思ハレキ所
有スルモノナリ

海軍省 第一八號

大正元年 十月二十二日

吳水雷團長 小花三夫

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎殿

驅逐艦一艘 折斷七件

本年九月十九日伊豫灘ニ於テ驅逐艦一艘戦闘運轉施行中本艦
推進器翼一枚折斷セシテ詳細調査左記ノ通

一折斷ノ状況

九月十九日午前七時驅逐艦一艘戦闘運轉施行ノ爲伊豫

灘ニ向テ出港午前九時三十分由利島南方二哩ノ地點ニ於テ

該運轉開始針路南七十五度半西一時間航走甲指定力量

ヲテリ針路ヲ反轉シ由利島南方ニ向テ指定力量運轉

開始三七分經過後午前十一時七分平群島東端ヲ左舷約

海軍省 第一八號

海軍省 第一八號

先任検査官

検査部長

検査部長

検査部長

検査部長

検査部長

検査部長

検査部長



十月二十五日検査官印



0513

正橋二里半ニ見レ地點ニ於テ依然船體ニ激甚ナル震動ヲ映ヘ
 右舷機ノ回轉急ニ増セシヲ以テ兩舷機ノ停止シ水上ヨリ透視
 検査ス右舷推進器翼一枚根元ヲ折斷ヤリ認メテ時ニ風
 向北東力ニ蒸汽壓力ニ三五所主機回轉數三三五推定馬力凡
 〇〇ミレヲ航行海面何等浮流物アリ認メス
 十月七日本艦ハ吳第二船渠ニ入り同月八日現状ニ就キ精細検査
 スル別紙圖面ノ通ミヲ折損翼ノ前進先端ヲ後進面ニ互リ
 切斷面ノ一部淡黒色ヲ帶スル部ハ全然他ノ部ト其性質ノ異
 ニシ亀裂ノ爲海水浸蝕ノ結果生レ又前進面ニ於テ其中
 夾部ハ長約七吋ニ擴カレ部ハ淡赤色ヲ帶ヒ最近ノ亀裂ニシテ
 海水浸潤変色トシテト認メラレ其他切斷面概シテ粒狀齶整
 ナク所々糜爛ノ狀ヲ呈シ隣翼モ亦長三吋ハニ具亀裂アリ

0514

二 折断ノ原因

右切断ノ状況ヲ以テ推ストキ、該翼ハ本運轉前、於テ既、亀裂ヲ生シ丹リシコト、確實ナリ、而テ最近入集（大正八年八月二十日）ノ際冬翌陰土具利脱用器ヲ検査ノ行ヒシモ其ノ露出面於テ亀裂等ヲ發見セサリシヲ以テ外郭、頭ハセ 程度、於テ已ニ其ノ状態ヲ呈レ丹リシ力或ハ其ノ以後、於テ亀裂ヲ生セシモノト見ル外ナレ又該推進器翼ハ製造當時ノモミテ機関本歴ヲ見ルニ其後改装セルヲナキナリ其ノ材質鑄造ノ粗惡不熟煉カ、明治三十八年六月新造當時ヨリ茲ニ七十五年使用ノ結果自然衰朽ヲ來シタルト、因リ漸次命數、達シ本件ヲ胚胎シタルモト認ム

三 當事者責任ノ有無及其程度

前點ノ状況及原因、依リ按ズルニ當事者豫メ此等、對スル

証

証

右報告書

處置ノ執ルト能ハクニシテ全然責任ナキニトス

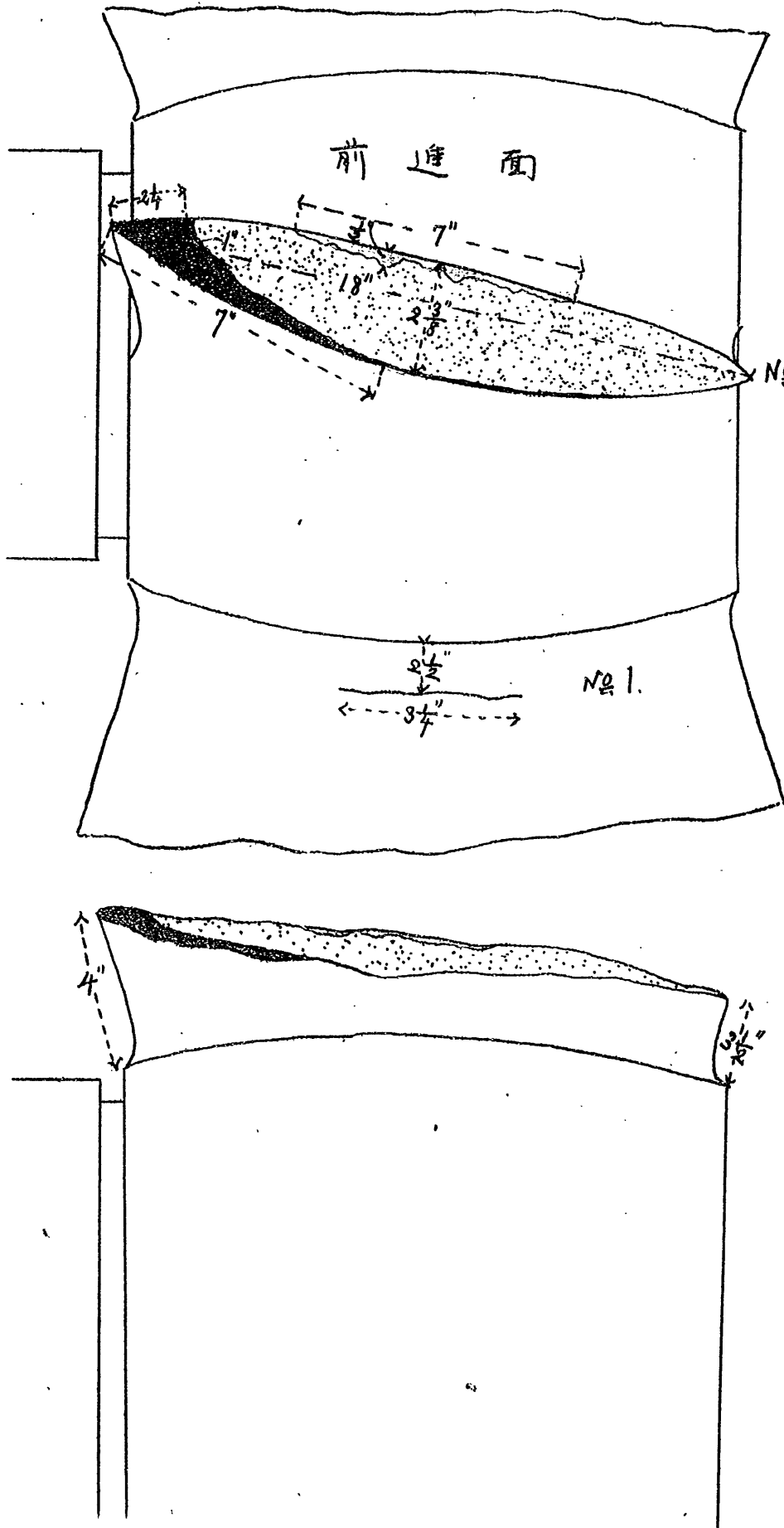
折衝推進器要圖面 一枚 添付

第五師団隊員報告書 一通

(5)

0516

駆逐艦潮右舷推進器折損之圖



折損セシ翼ハ第三翼ニシテ其一端ヨリ約七吋許リハ淡黒色ヲ帯ヒ他ト粒質
 ヲ異ニシ又中央ノ部セ吋許リハ淡赤色ヲ帯ヒ居レリハ八分一吋
 第三翼ニハ固キ裂罅アリ但シ罅線状ヨリスルニ過ギス

0517

五編第一〇号

大正元年十月九日

第五驅逐隊司令有馬純位

吳鎮守府司令官長加藤友三郎殿

潮推選器一件

曩三五驅第二〇脚ヲ以テ潮推選器ヲ異折損存報告
致置キ候處入渠後折損部精細検査ニ付別國通
リ候條來歴表相添
右報告ス



(結)

00518

大正元年十月九日

潮艦長海軍少佐野田為良

第五艦隊司令部商船部位 殿

潮推進器一件

本月七日午後四時入渠在八日午前八時渠水
全部排出ニ付右舷推進器羽翼折損部精
細ニ検査スルニ別圖ノ如ク有之矣ニ付右器兼
左舷基表差通添付
右報告ス

了

右舷推進器未歴抜萃

入渠年月日 検査状況

明治三十八年七月五日 推進器旋回試験施行其他記事ナシ

会三十九年一月四日 記事ナシ

会三十九年六月四日 記事ナシ

会三十九年十二月一日 記事ナシ

会四十年八月九日 記事ナシ

会四十年二月廿九日 張坐義検査之其他記事ナシ

会四十年八月十四日 右 合

会四十二年三月廿日 右 合

会四十二年七月廿日 右 合

0520

公四十二年一月廿一日

検査異状ナシ

公四十三年四月九日

今年三月廿四日検査ニ接續タテ横所ナシ
ヲ能見揚陸ノ上ニ及ニ取入修理

公四十三年十月廿日

張出彙々検査ニ其他記事ナシ

公四十四年五月三日

特定修理ニ付陸揚上検査異状ナシ

公四十五年二月廿九日

検査異状ナシ

大正九年八月廿日

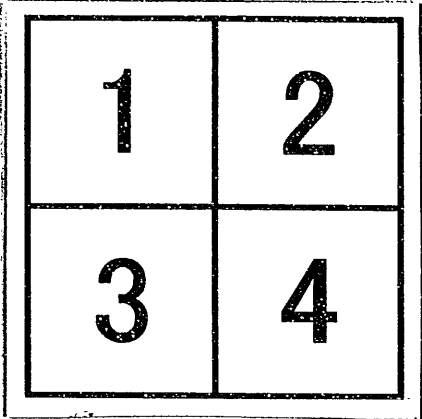
検査各羽異状ナシ

0521

早三年三月
社ト思ハシ
ヨリ

ヨリ

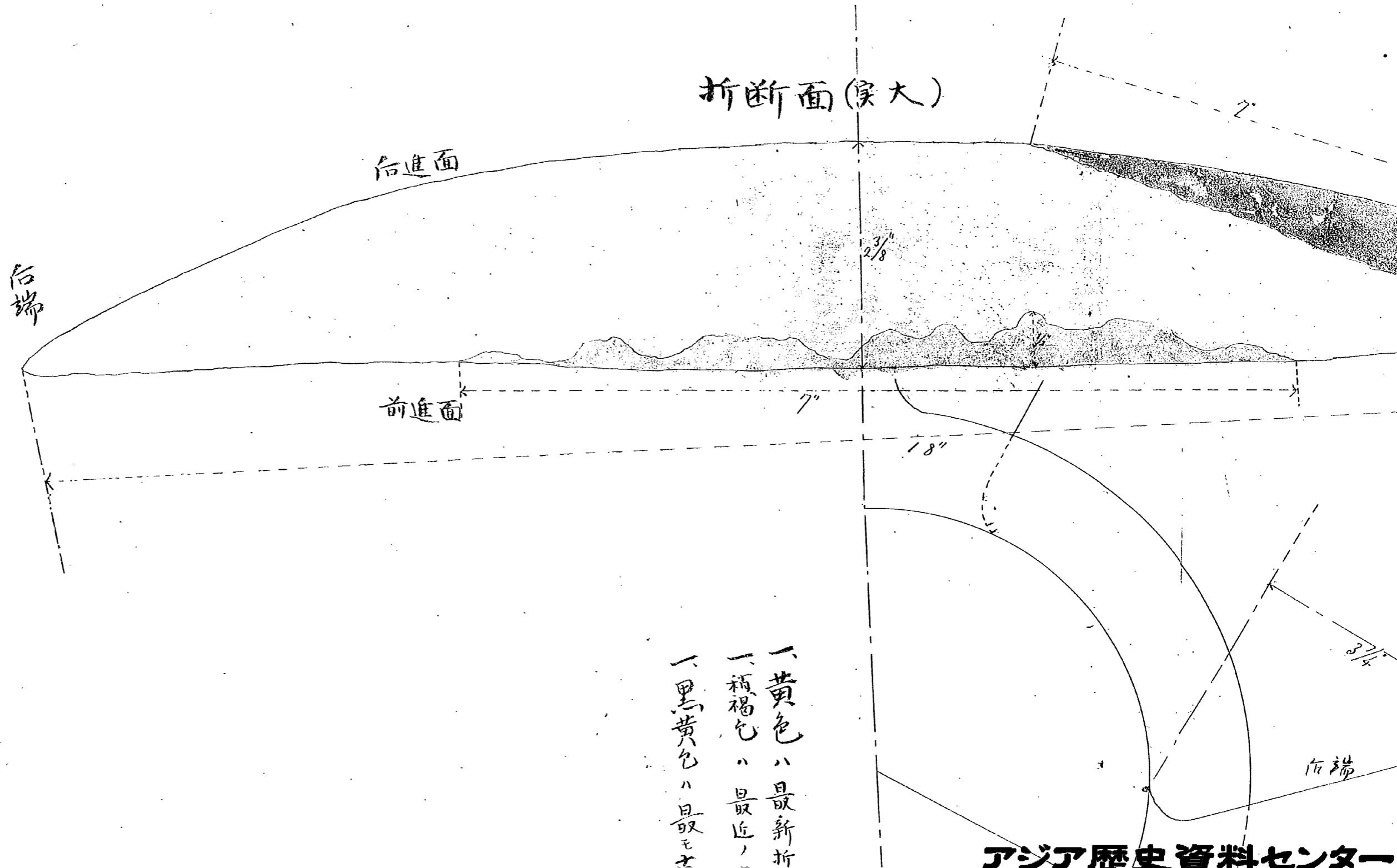
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

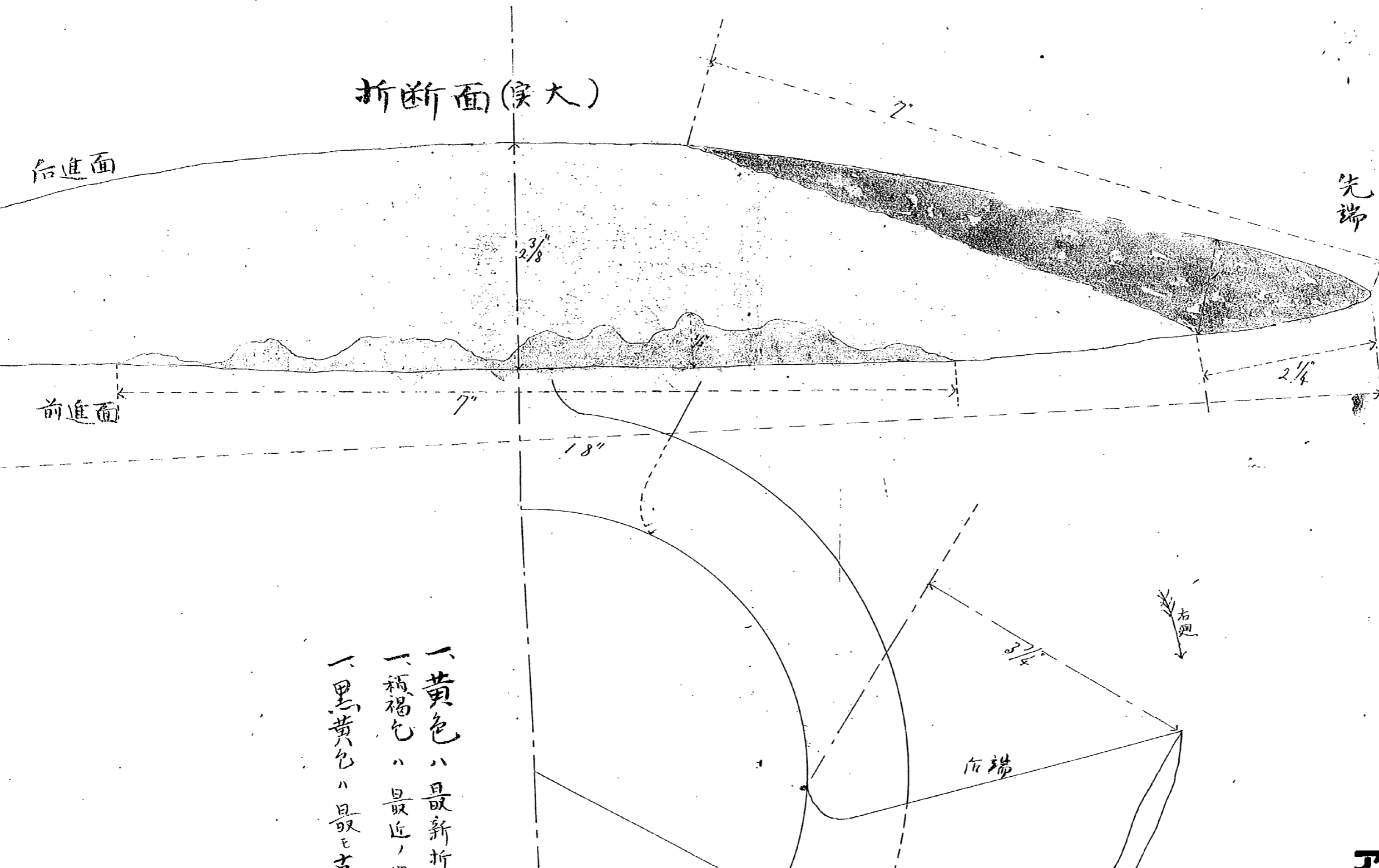
0523
0524

0525
0526

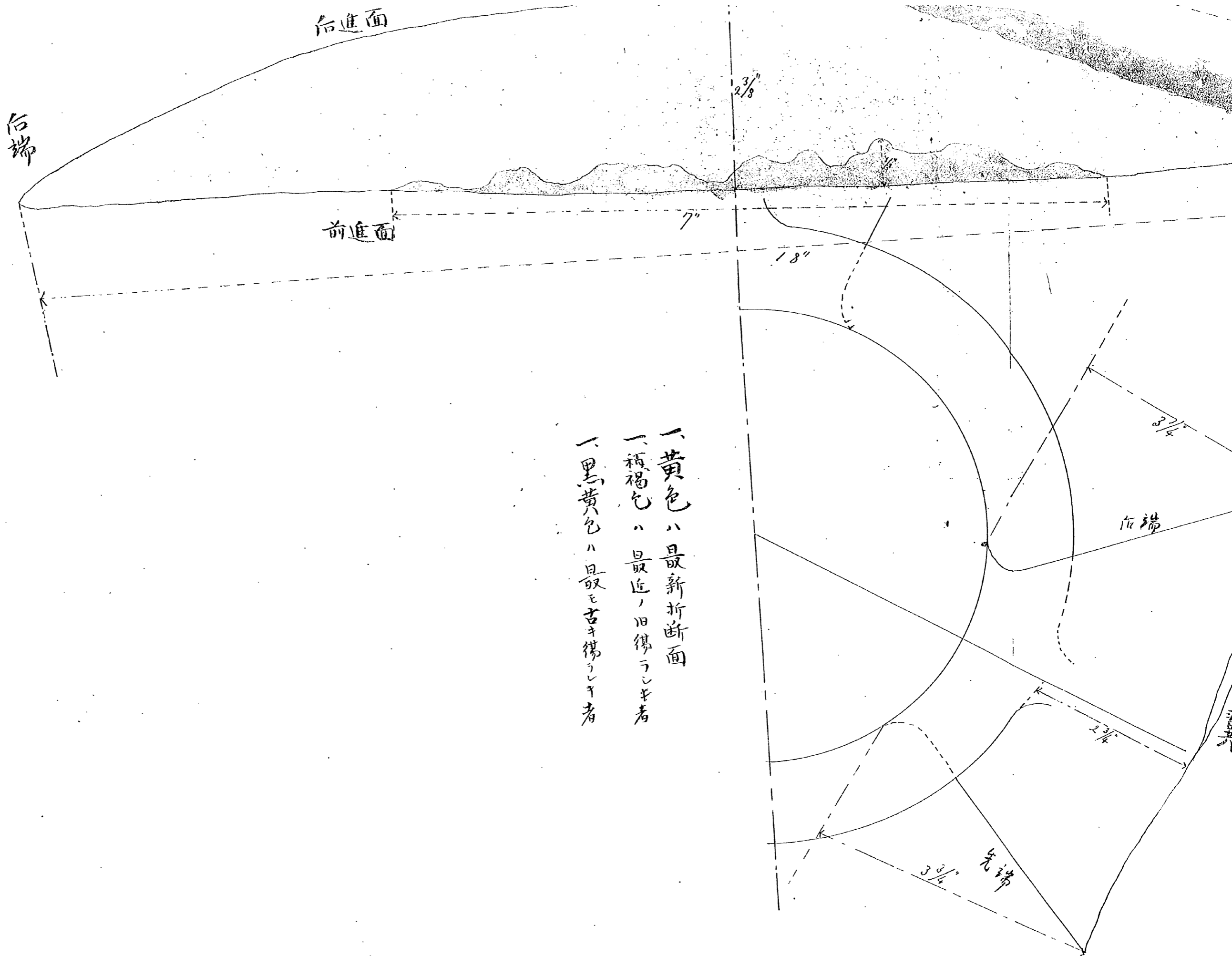
潮右舷推進器第三翼折損圖



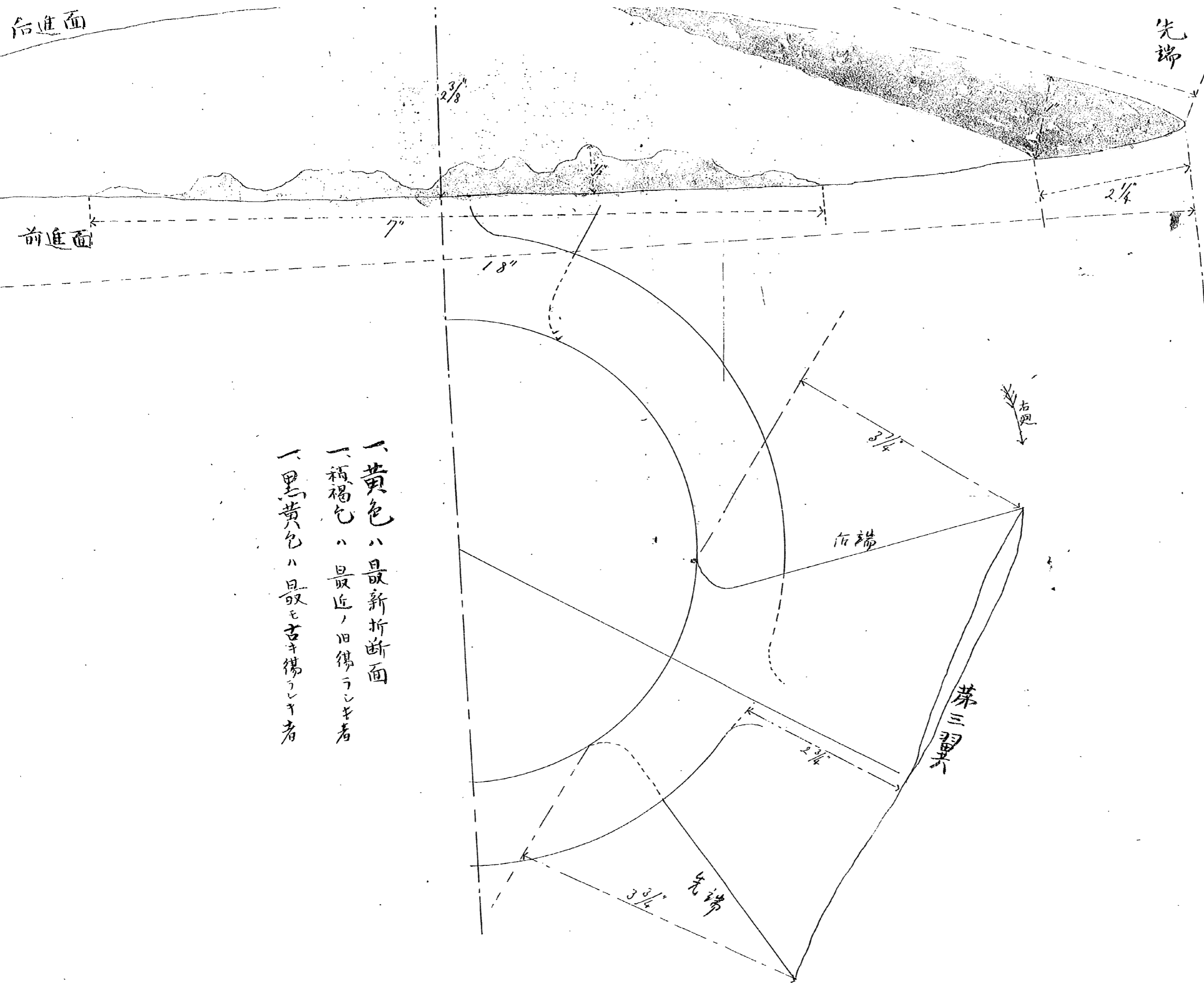
潮右舷推進器第三翼折損圖



- 一、黄色ハ最新折
- 一、淡黄色ハ最近ノ一
- 一、黒黄色ハ最古也



一、黄色ハ最新折断面
 一、褐色ハ最近ノ旧傷ラシキ者
 一、黒黄色ハ最近モ古キ傷ラシキ者



一、黄色ハ最新折断面
 一、赭褐色ハ最近ノ旧傷ラシキ者
 一、黒黄色ハ且モ古キ傷ラシキ者

電

勸告

大正元年 九月 九日 午後 八時五分 局發

受信者 大正

發信者

陸軍省

電報譯

朝鮮戰鬪運轉施行中終了廿五分止

艦政本部

軍務局

教育本部

軍令部

教育本部長

第三部長

副官

部員

第三班

第一班

軍

0527

供覽

軍務局

艦政本部

軍令部

大正元年 十月 十六 日午 七時三十分 澄岐津田 局發
大正元年 十月 十六 日午 八時五十分 局着

受信者

海軍大臣

電報譯

利根第一駆逐隊(吹雪)第一駆逐隊(吹雪)七時
隊機可幸斗五候ノ都合ニ依リ善七白
午三時七時向隊對ニ白ノ機ノ豫定
五白午後九時五十分中安乗時ノ南東微東
三十一之理ノ位 艦上ニテ 仰答 浮法物ニ觸ル兩推
進器ヲ異ニ 屈折セシメ付入 係修理ノ為
ノ号ニ 回シ七ノ 推進器 外 此 係 機 関
共ニ 異 状 十 年 七 月 一 日 認 山 (了)

海軍

0530

電部

紙

軍務局

會着 第三

艦政本報

電

延速

局		着		局		誌		發		名氏所居人信受	
取扱者	受借	付午後	受午前	付午後	受午前	第	第	局	報	名氏所居人信受	
		時分	時分	時分	時分	月	日	號	局	報	
<p>指 定</p> <p>事 記</p> <p>エヒアサ、ア、カ ニヒニセツ、コ、カ ソ、カ、ス、ユ、ア、ス、コ、カ 六日朝暁、於尾ニ接觸 此後自ラ少シク破損ス 格段々延速延速格長</p>										<p>電信</p> <p>數紙</p> <p>第三十六號</p> <p>印附日信着</p> <p>1. 71. 4</p> <p>延速局接受</p>	

0533

陸軍省
海軍省
外務省
文部省
逓信省
農商務省
司法省
大藏省
陸軍省
海軍省

司

電

電

軍務局

海軍省

第三部

會計課

六月廿七日

横濱参謀部電

今六日朝港に於て對抗運動中橋立嚴
島、随伴シツ、ア、シ、カ、四、砲、隊、二、番、艦、連、
一、番、艦、曙、艦、尾、衝、突、シ、水、報、ニ、於、テ、艦、首、
ニ、全、面、生、シ、平、洋、亦、已、ニ、少、許、浸、水、シ、八
哩、迄、力、ヲ、用、獨、獨、揚、尾、直、ニ、集、ル、一、艘、艦、
ヲ、列、ニ、差、支、テ、見、込、人、員、換、傷、ナ、リ

曙換傷ナリ

0534

電

大正元年 十一月 十五日 日午後九時 十分

局著 局發

受信者

海軍大臣

發信者 第十二駆隊司令

電報

濟

軍務局

軍令部

綾波、碓泊中今朝八時十分入港、汽船
 天龍丸、衝突サレ左、損傷ヲ被リ
 右舷後部水準線ニ直徑約一呎深サ
 約一吋、凹ヲ生ジ、數個、鉤、緩ク浸水
 又右舷推進器、羽翼一個、長サ
 約一呎半、巾約一呎、折損シ、他、一、長サ
 約四吋、巾約三吋、屈曲ニ、同側、推進
 器、カ、ド、折損セリ、横須賀ニ回航修理

海軍

0535

大正元年 月 日 午 時 分
大正元年 月 日 午 時 分
局 著 局 發

受信者

發信者

電報譯

セシム取敢不報費

(參照)

一 藩士 野邊 司令

中宿 健知 田喜太郎

一 緒波 地長

大府 尾田 三他人

一 天龍丸 百七十八噸 木瓜

東京海汽航社 株式會社 所有 瓜

海軍

0536

電報送達紙

注意 互に他人に宛じたる電報の配達を受けたるときは其由を付箋し直に之を配達したる電信局所に返戻せらるべく決して其受取本人へ直送し又は手渡しせざることを

注意 受付月日の記入を省略したるものは受付の當日著局に於て受信したるものとす

局著	局	發	名氏所居人信受			
受信者 信	受信者 信	受信者 信	第	月	日	
時	時	時	分	分	分	
分	分	分	報	局	號	
トハサト キバカ 1 ヲサカ 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100			指	名氏所居人信發		
			記	印附日局著		
			番	著		

0540

電報送達紙

●注意 受付月日の記入を省略したるものは受付の當日若局に於て受信したるものとす

●注意 万人一人に宛てたる愛報の配達を受けたるときは其由を付箋し直に之を配達したる電信局所に返戻せらるべく決して其受取本人へ直送し又は手渡しせざることを

局著	局			發		名氏所居人信受	
受信者 信受	午	付	第	月	日	報	5
時	時	分	分	號	局	指	
定指							事記
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> スト リ ア エ ス ス ー ー </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> コ ー ー コ ス カ ニ カ ー </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> ガ ー ト ス カ ニ カ ー </div> </div>							
					印附日局著		番 著

印刷局製造

0541



0542

大正元年 十一月 十九日 午後九時 分 櫻本 局 發
 大正元年 十一月 十九日 午後十時 二十分 局 著

受信者 海軍大臣 發信者 第十二駆隊司令官

電報譯

綾波 龍丸 被 泊中 今朝 八時 十分 入港 汽船
 右舷 後部 水準線 直 後 約 一呎 深サ
 約 一呎 又 右舷 推進 器 一個 長サ
 約 四呎 中 約 三呎 一呎 折損 他 八長サ
 右舷 カード 折損 セリ 横須賀 二回 航修 理

海軍

密

0543

(右時頃)

大正元年 月 日 午 時 分 局 發

大正元年 月 日 午 時 分 局 著

發信者

受信者

電報譯

セム取敢ハス報告ス

參照

一 幕十三 野田司令 中佐 鍵和田 尊太郎

一 綾波 船長 大尉 尾田 三他人

一 天龍丸 百七十八噸 木弘

東京海汽水株式會社所有

海軍

0544

海軍

吳鎮守府第三二七番

大正元年十二月二日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍大臣男齋藤大次郎

艦政本部

軍務局

第四駆逐艦子日推進器羽根折損ノ件

本件別紙ノ如ク當該司令官ヨリ報告有之

ハシ

右報告ス

追テ本件ニ関シテハ尙ホ甚詳細ニ調査シ何

カニ善報告可クハ

海軍大臣ヨリ

回覽後軍務局戻シ

海軍

0545

元十二月十一

12-6

五駆第一二三号

大正元年十一月二十号

第五駆部隊司令官有馬純位

長崎守府片長官加藤友三郎

子の推進器損壊事件

大正元年海軍大演習中十一月廿六日
時三十分頃島崎津二村本隊敵艦失射
刑之追跡し来り思ノ之ヲ為脱走為ノ最
速力(三十分)ニ航走申曰七時四十分迄
着航子右舷推進器損壊一枚折損七失也
依テ直方横須賀ニ回航修理ヲ命シ令飛
即日回航入渠セリ其後之ヲ調査セシメ該

鑄疵乃永年保用、結果亦所具自然脆弱之
陥り高途、同封之堪らざるを折換せしむるに
高本本年十月十三日浮標設置を為し、後述の
行に免際能及之懸案爲しありし通、亦浸水之に
觸し微く羽田端の曲を免り下ありしを甚き爲し
状況並に折換而、状態心より推断するに今回、
折換一喜し最御考す中と判断す
右部去す

子日機密書第七〇條

大正元年十一月九日

子日駐通張長伊東直三郎

右船推進器の異折損ノ件

大演習前三期大正元年十一月七日午前九時三十分野島崎沖ニ於テ原速十五節ニ編隊
(本記四番艦)航行中同皆四十分左舷前方ニ敵(青平)矢刻型ヲ迫ルニ對シ全速(二十三節)ニ回轉數三九〇トシ適宜針路ヲ及轉シ尙前續航トシ距離ヲ保リ為メ回轉ヲ増加シ三〇〇―三三〇(推定馬力三〇〇―三三〇)ニテ續行中同七時四十分不同崎燈台ノ西ノ南二分ノ西約十二五哩地

是の如き主機械の圧力計の異常状ナカリしに、
 二急劇其異様ノ震動ヲ感シえり、
 推進器ヲ停止シ、
 視之に右機推進器
 右機一機折損致失せり見ゆ、
 (左機)既行三機須考す、
 一機ノ工廠者一試準ホト検査ス、
 折損、
 材質脆弱ニ陥リタルモノト認ム、
 換装同日九日竣工、
 豫定

(附圖の該推進器兼歴沿革添)

右舷推進器來歴沿革

入渠の検査年月

検査状況

三九、一、二二

記事なし

三九、五、七

記事なし

三九、十一、二

記事なし

四〇、七、一八

記事なし

四一、二、一八

記事なし

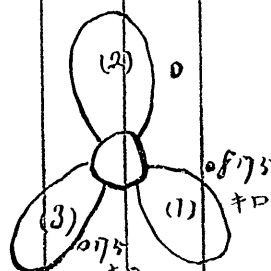
四一、八、五

検査スルニ轂一面ニ甚シキ光沢ヲ認め

漁網ノ纏固セシメテ之ニ所着セシ瀬介

製成鍾量ノ磨石擦ニ原因ス其他ニ

好ミシテ特記スルコトナシ

四六三、	検査スルニ良然ニシテ缺陥変形腐蝕等ナシ
四六七、二七	検査スルニ良然ニシテ缺陥変形腐蝕等ナシ
四四八、二九	検査スルニ良然ナシ
四五三、八	復旧工事ノ為メ陸揚「モーメント」ヲ計測シ左圖ノ如ク刮削シ各羽葉ヲ平均セシム
	 <p>号工ノ補 0.075 寸</p>
	<p>各羽葉ヨリ刮削セシム</p>

土佐船機株式会社

0551

元、一〇、一六、一〇、一五航路浮標ノ際後進ヲカケルニ

船ニ懸架キアリタル通形ニ觸レタルニ右舷推進器

ノ羽根尖端ニ於テ屈曲ヲ生ジテ入流後潜水

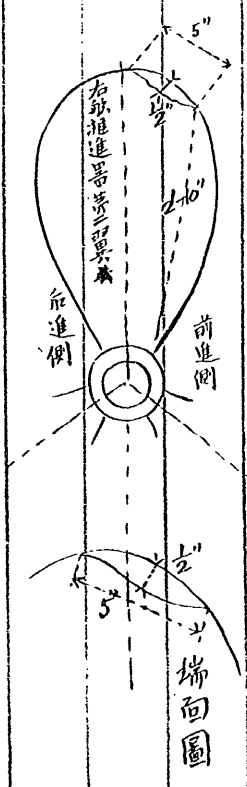
器ヲ用ヒ検査スルニ吹風ノ如ク其他異状ナシ

テ号水雷同ノ潜水機ヲ用ヒ釣鉤ヲ當テ

鉄鉤ヲ以テ矯正シタルニ尖端ノ薄キ部

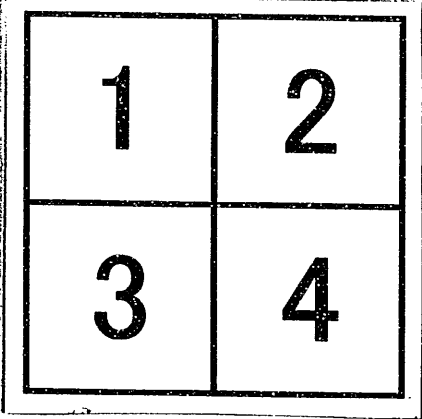
カニ復旧シ得タリ時域ヲ得テテ精密

ナル検査ノ矯正ヲ要ス



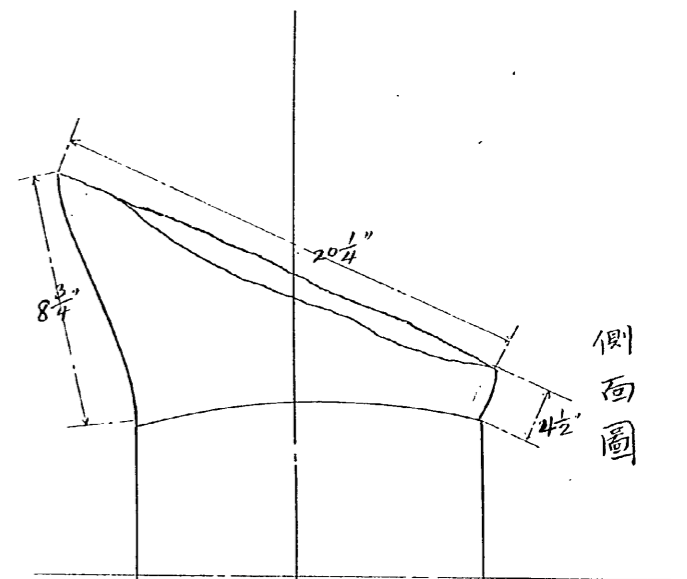
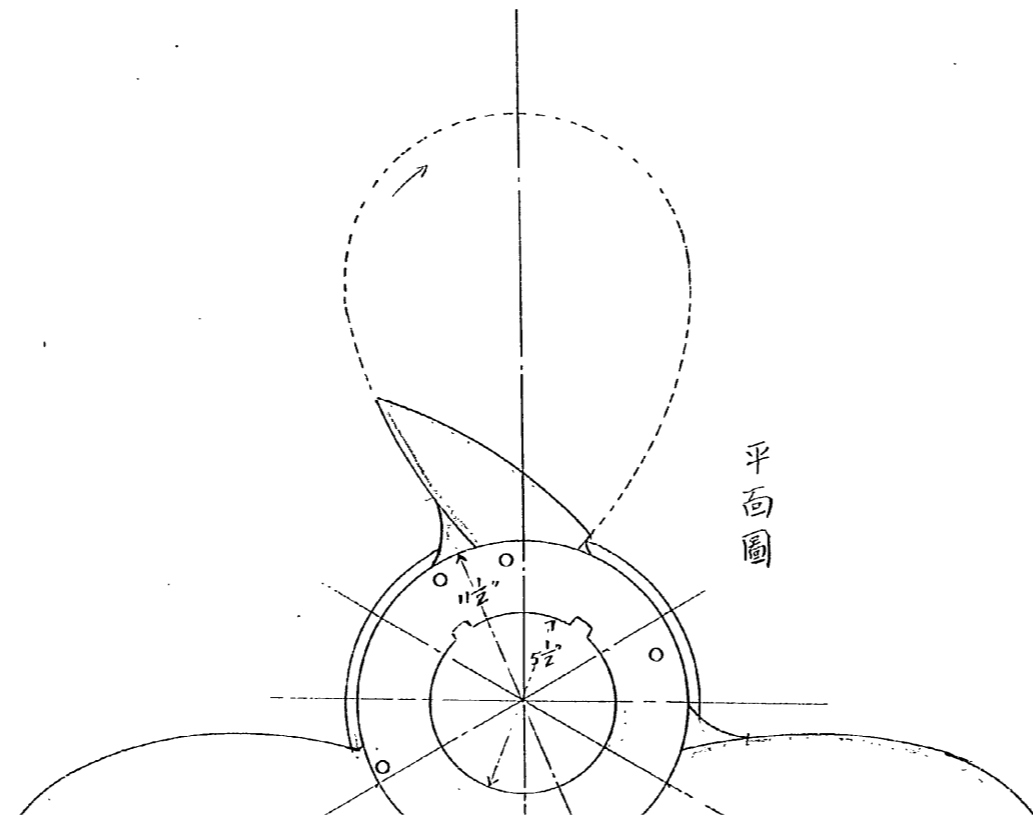
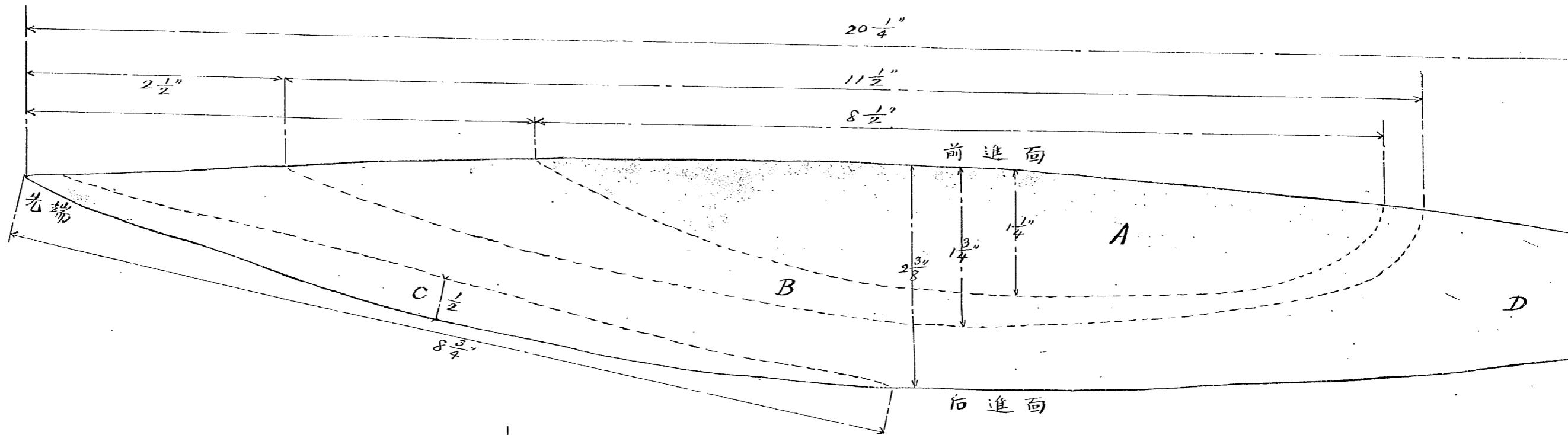
0552

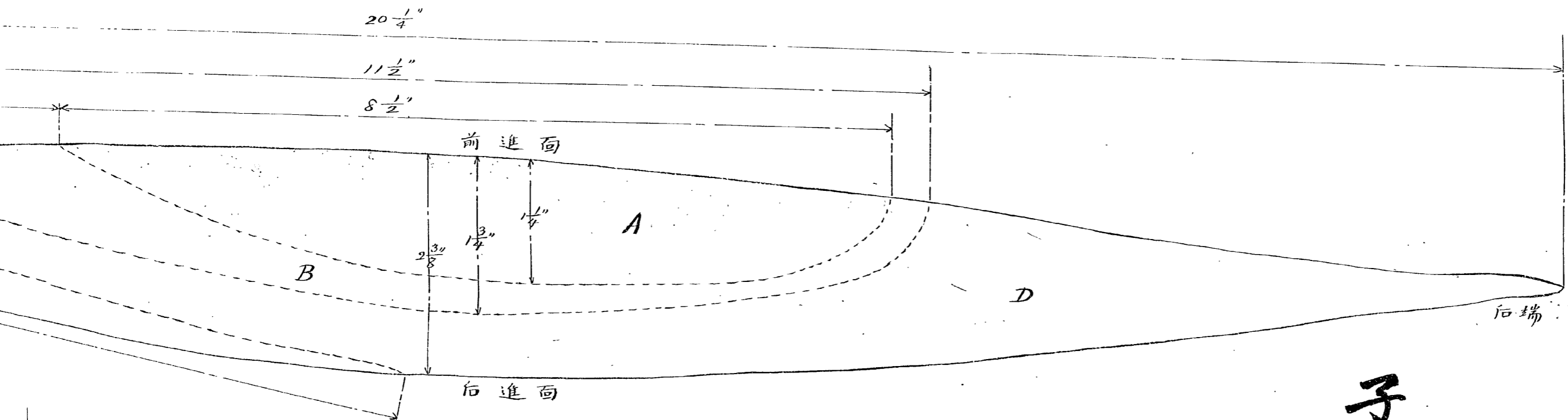
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0554
0555

0556
0557

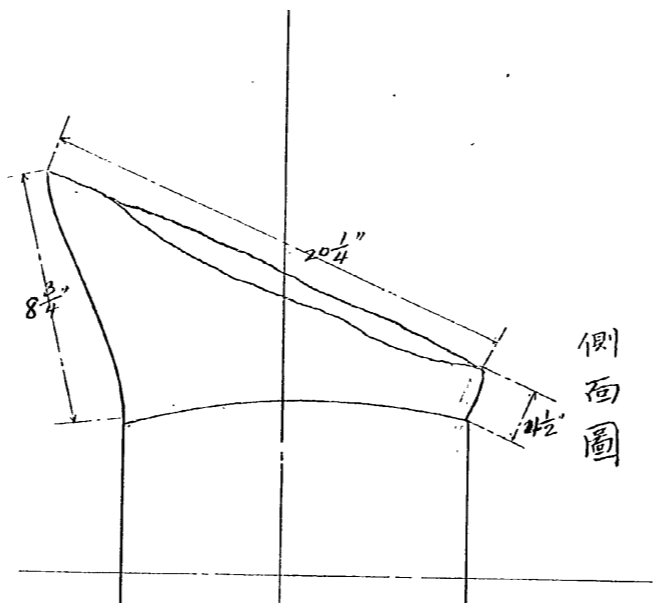




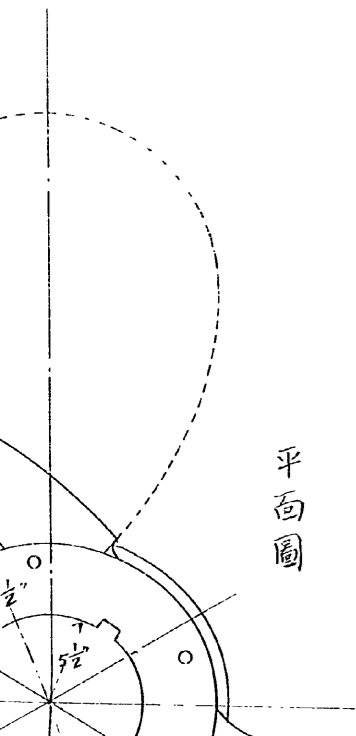
后端

子日右舷推進器第二翼

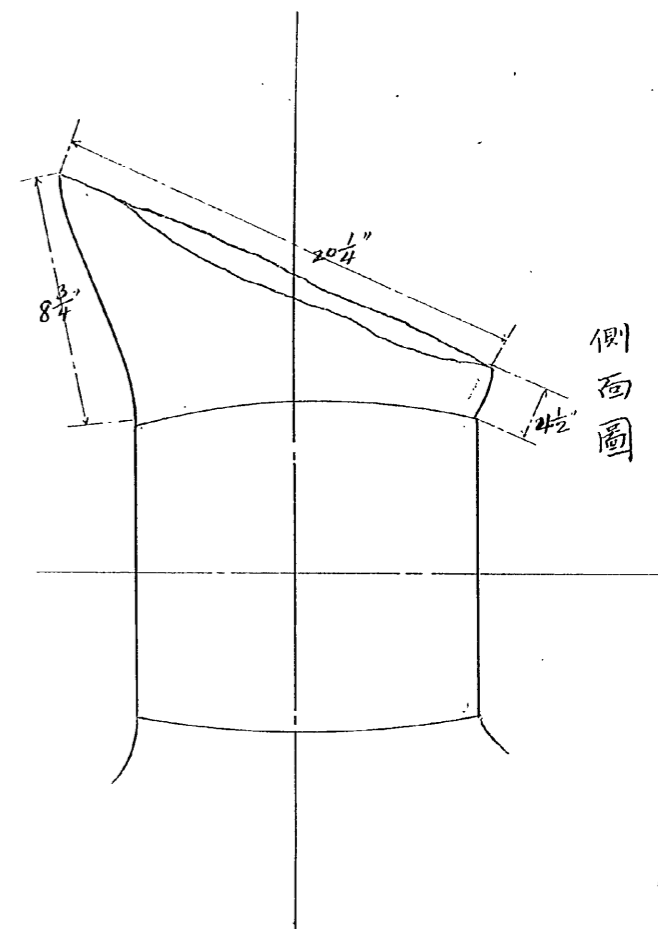
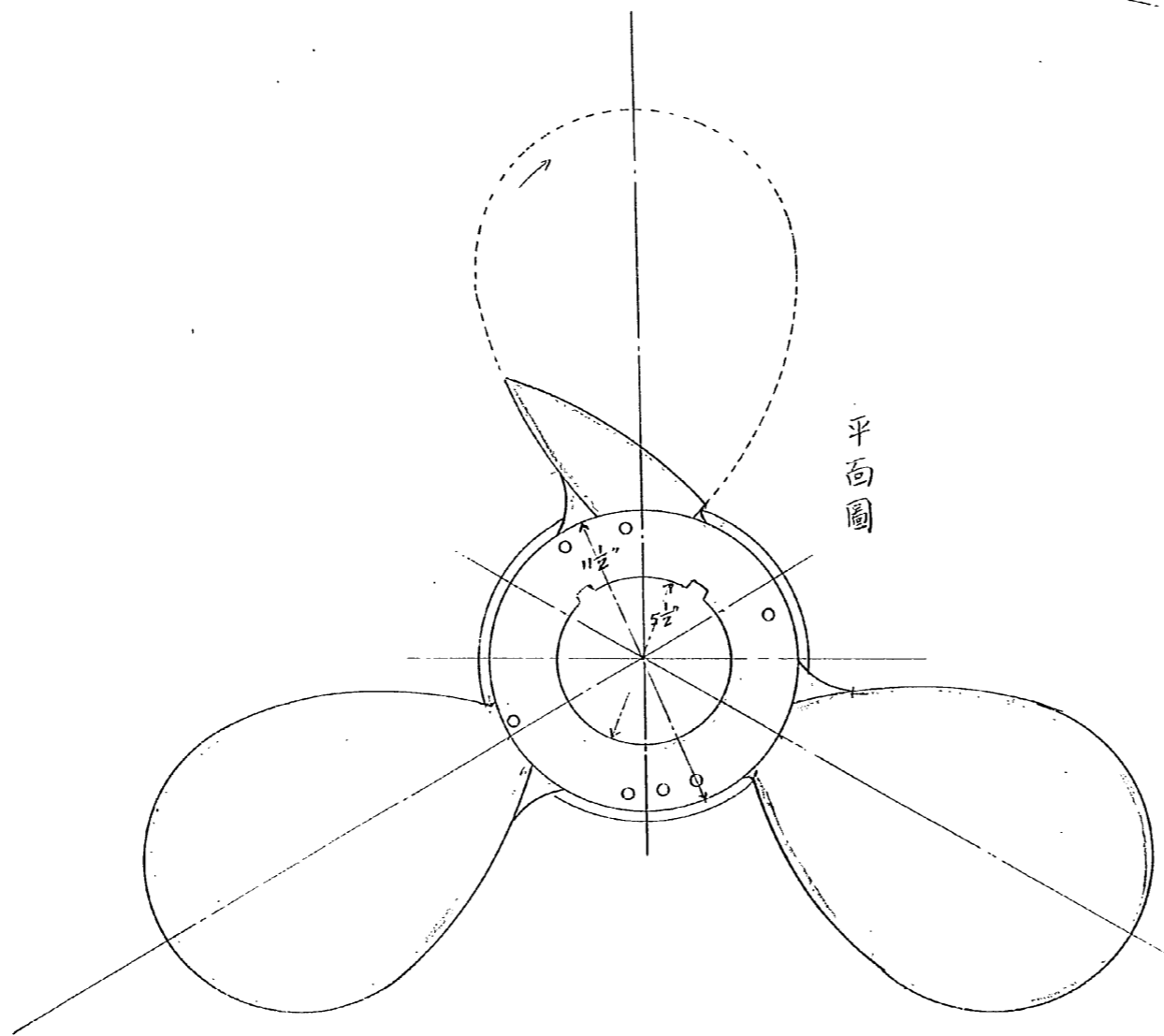
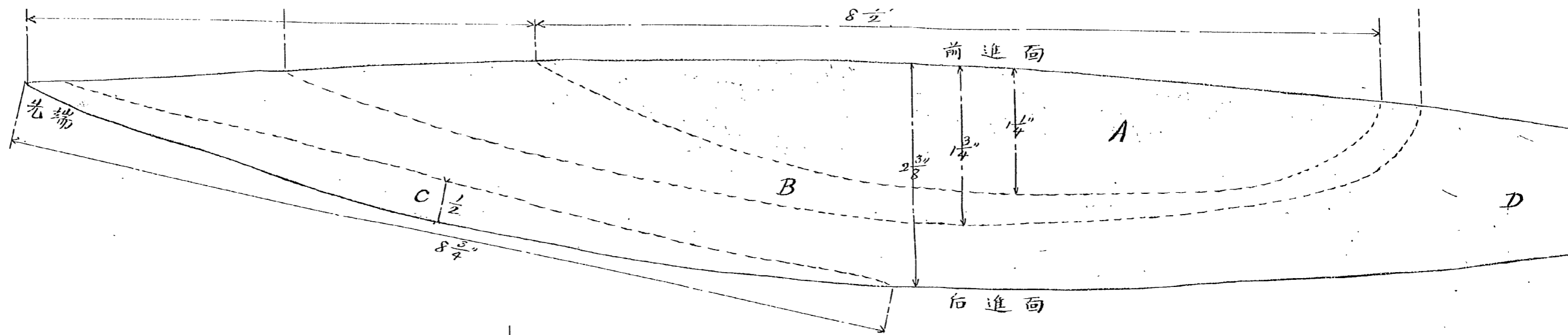
A "旧疵ラシキ部分"
 B "Aヲ比較的新シキ部"
 C "鑄物ノ性質不良ト"
 D "其他ノ折断面ヲ示
 折換面ノ粒状ヲ
 各色ノ間ニ確然"

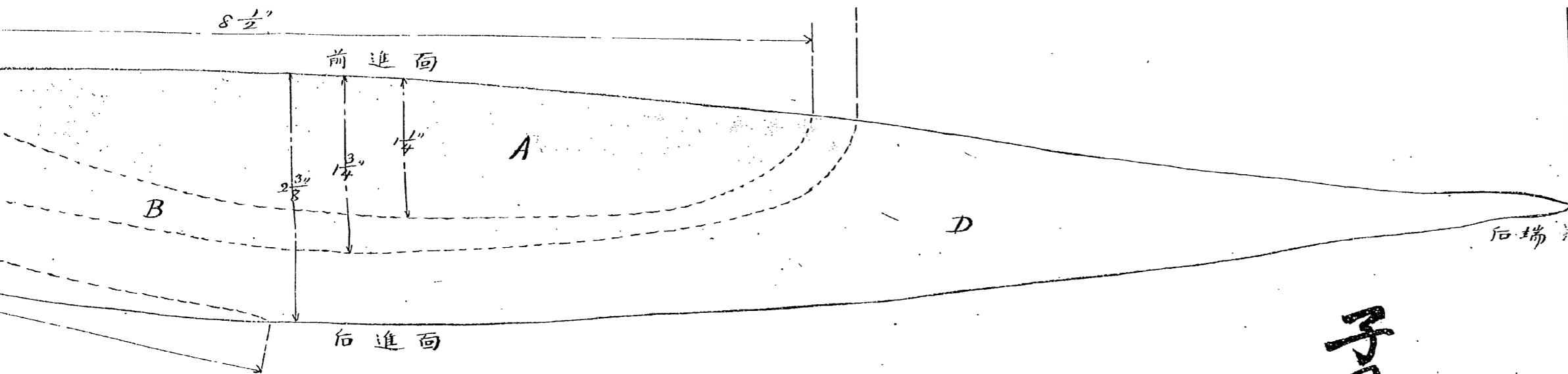


側面圖



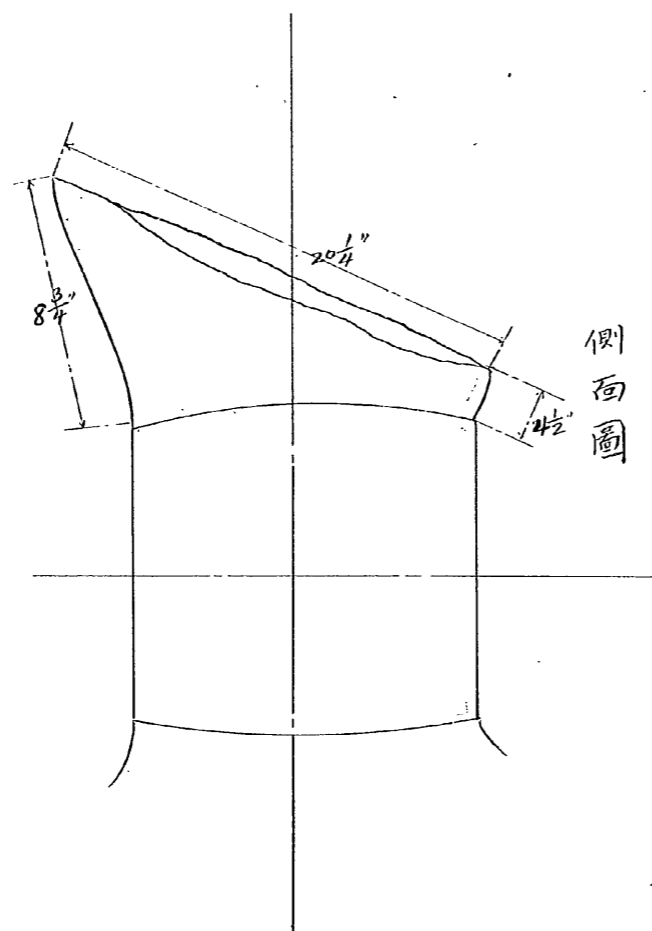
平面圖



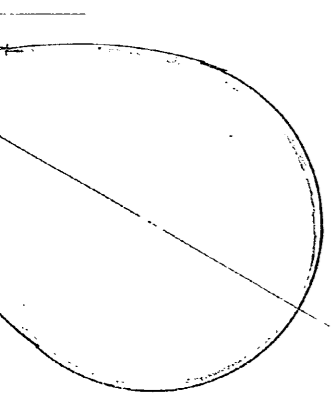


子日右舷推進器第二翼折損圖

Aハ旧疵ラシキ部分
 BハAヲ比較的新シキ疵ラシキ部分
 Cハ鑄物ノ性質不良ナル部分
 Dハ其他ノ折断面ヲ示ス
 折損面ハ粒状ヲ呈ス
 各色ノ間ハ確然タラズ

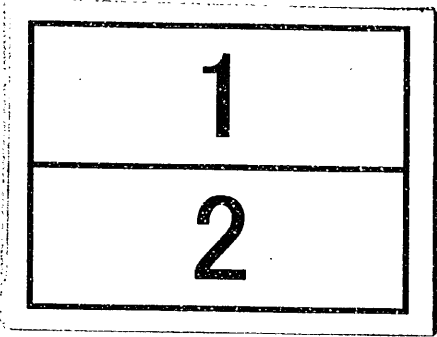


平面圖



東京大学
 工学部機械工学科

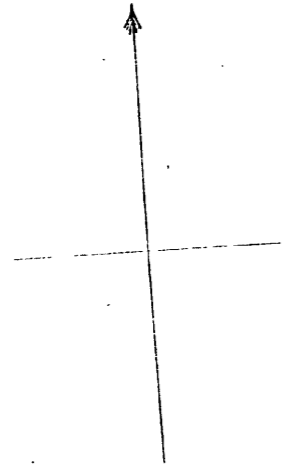
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0558

0559

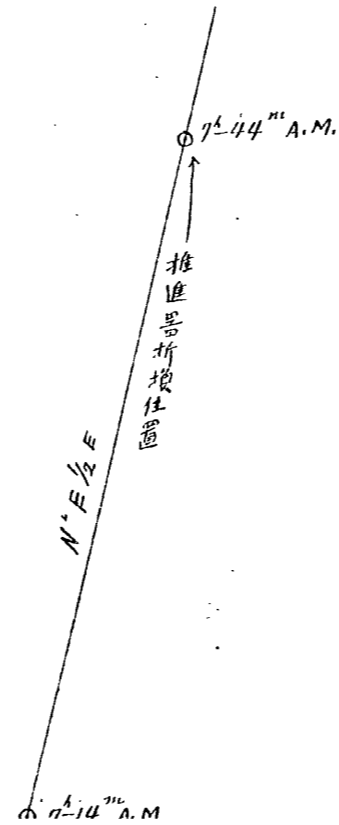
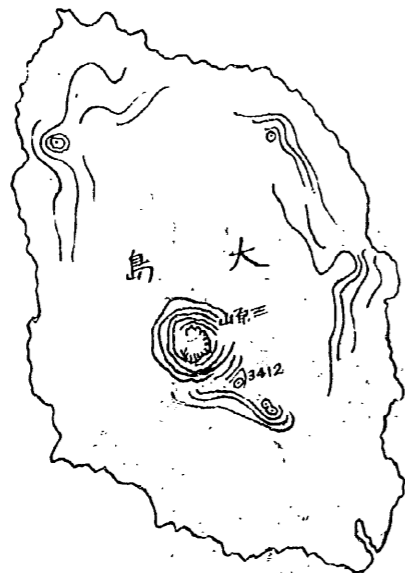
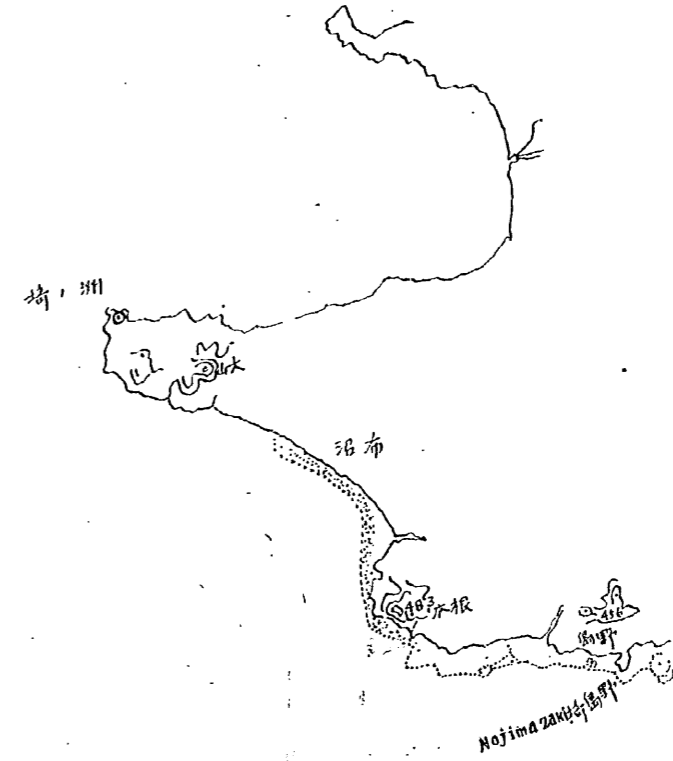
海軍海圖第五一號上同尺度



灘

模

相



向尺度

灘

模

相

